第４回高松市総合計画審議会

日時：令和５年１０月１６日（月）　１８時３０分～

場所：防災合同庁舎３階３０１会議室

次　　第

1　開会

2　議題

（１）次期高松市総合計画基本構想案のパブリックコメントの実施結果について

（２）次期高松市総合計画基本構想案に関する答申について

（３）その他

3　閉会

資料一覧表

資料１　基本構想案のパブリックコメントの実施結果

資料２　第３回高松市総合計画審議会会議記録

資料３　高松市総合計画審議会答申案

資料４　発言要旨に対する方針

資料５　基本構想の成果指標（案）

その他

・次期高松市総合計画基本構想案

・第６次高松市総合計画

基本構想案のパブリックコメントの実施結果

資料１

（１）募集期間と件数

９月１５日（金）～１０月６日（金）　意見件数　７件

（２）募集項目

基本構想案の目指すべき都市像とその概要について

（３）内容

No	内容
1	観光に重点を置きすぎている。 農業や漁業、ものづくりの製造業について、一言もふれられていない。 香川県は、ニッチなものづくりの企業が沢山あり、臨海部には様々な工場があり、１次産業、２次産業を軽視せず、目指すべき都市像に文言を加えるべき。
2	「多様な個性」というフレーズは賛成。
3	今回のパブコメ実施に当たって市から公表された資料及び情報不足の改善について 前回のパブコメでも指摘しましたが、市民に対して、意見を募集するのに、高松市から公表される資料・情報が不足していて、真剣に市民から意見を募集しようとしているのか甚だ疑わしい。 市民目線に立って、もっと丁寧で、分りやすい資料や情報提供を実施して欲しい。
4	令和 3 年度に実施された次期総合計画基礎調査報告書の最新データへの更新について 前回のパブコメで提案しました判断材料となるデータ等を添付して欲しいとの改善要望に対して、「令和 3 年度に実施された次期総合計画基礎調査報告書」のURLを添付して頂きましたが、最新の令和4年のデータに更新されていない。

次期高松市総合計画の策定経過　パブリックコメントの御意見

（３）内容

No	内容
5	市のホームページに公表されている策定スケジュールでは、今回の中途半端なパブコメで、市民が意見を言える最後の機会となっているので、最低でも2回、基本構想案としてきちんとした形のものと実施計画(まちづくり戦略計画)の形がまとまったもので実施することを切にお願いしたい。
6	目指すべき都市像の「世界都市・高松」に違和感がありますので、これまで採用してきた「瀬戸の都・高松」を存続させることを提案。 総合計画は、30年後、50年後の将来を見据えた長期的な展望の下、目指す都市像を策定してきているので、過去3回採用されている「瀬戸の都・高松」を使った言葉とすることが適切。 また、「瀬戸の都・高松」のロゴマークも作成して、民間団体や企業にもこのロゴマークの使用を促進してきている。 この点は、一貫してかえてはならない部分である。
7	目指すべき都市像の説明文について、30年後、50年後の高松市を想像する前に待ち構えている、大きな課題【少子化、超高齢化、IT・AI化による大きな社会構造の変化】に対応しなければ、その先を迎えることが出来ないという危機感が不足している。 それらの課題を乗り越えた先に、はじめて目指すべき都市像がある。 課題を乗り越える道筋や気概・奮い立たせる言葉を追記することを希望。

会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	第３回高松市総合計画審議会
開催日時	令和5年９月１９日（火）18時30分～20時
開催場所	高松市役所防災合同庁舎３階３０１会議室
議　題	（１）次期高松市総合計画の名称と目指すべき都市像について （２）次期高松市総合計画の策定経過と令和５年度行政評価結果について （３）次期高松市総合計画基本構想案について ・グループディスカッションによる検討結果について （４）その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員（23名）	赤崎委員、伊藤委員、大美委員、笠井委員、喜田委員、木村委員、粂井委員、国東委員、久保委員、佐野委員、城下委員、田口委員、佃委員　、角田委員、豊田委員、中村委員、中橋委員、野田委員、日笠委員、古川委員、星野委員、真鍋委員、森田委員
傍聴者	５人　（定員１０人）
担当課及び連絡先	政策課　839-2135

会議の経過及び結果

（１）次期高松市総合計画の名称と目指すべき都市像について

（委員）
「人が集って、躍動し、世界が注目する都市になる」という起承転結は理解でき、ビジョンはあまりこまごま説明しなくても、分かりやすいものである必要がある。

（委員）
今回初めて「未来」や「世界都市」という言葉が新たに入ってきた。高松をより世界に広げていこうという思いが伝わってきたので、良い都市像だと感じた。

（委員）
確かに広がりがあり、未来に続くというイメージはつく

が、「世界都市」は何をもって「世界都市」なのかが分かりにくい。
　グローバルから選ばれるのが「世界都市」なのか、グローバルに対して展開していくのが「世界都市」なのか、これではどちらをイメージしているのかが伝わってこない。
　総合計画の基本的な考え方で「選ばれるまちづくり」を掲げており、「世界から選ばれる」と理解したが、よくよく読むと違うような気もするので、趣旨を説明してほしい。

（事務局）
　本市にたくさんの人が訪れ、元気なまちになっていくと、好循環が生まれて、市民もまちに誇りを持ち、愛着を感じ、住み続けたいと思うようになる。
　暮らす人、訪れる人、それぞれがWell-beingな心地よさを感じるとき、国内外から注目される都市、それを「世界都市」としている。
　行政だけではなく、民間企業や市民と連携しながら、元気なまちを創ることで、その結果、国内外から「高松はいいよね」「高松は素晴らしいね」と注目されれば、選ばれるまちになるのではないかという想いを込めている。

（委員）
　この都市像が、総合計画の基本的な考え方にリンクすれば、もっとつながっていく。個々のパーツの中ではまとまっているが、連動しないと、総合計画としてはあまり意味をなさず、それぞれの自己満足に終わるのではないか。次につながっていくことが明確になるような言葉が入っている方が良い。

（委員）
　まちづくりとは、すなわち、人が集まって、活動することだ。本市が直面している、人口減少、子育て、共生社会などのそれぞれの課題を解決していかなければ、目指すべき都市像を実現できない。
　出生率の向上に向けて、妊娠・出産に対する費用補助など、子育て支援はしっかりと行われているが、バラマキ政策で終わるようでは困る。
　地域、社会、企業などが連携し、子育てしやすい仕組みづくりを構築していくこと、本市として、子育てに関する予算をどう確保していくかを考えていかなければならない。

（会長）
　基本的には、予算が子育て世代に行きわたるようにしていくことが重要であり、子育て世代の人たちと、それを応援する人たちが何を求めているのかをとらえていく必要がある。

（委員）
　日本の人口はこれからどんどん減っていく中、様々な政策

が検討されており、その中で、県や市はどの程度の人口規模を目指していくのか。

（事務局）
令和２年３月に「たかまつ人口ビジョン」を策定し、当時の国勢調査の人口推計に基づいて将来予測を行った結果、本市としては、2060年に38万人程度を目指すとした。
次期総合計画を策定するに当たり、人口減少社会に対応する政策だけでなく、人口減少を抑制する政策を積極的に実施することで、人が集うまちにしていきたい。
市外、国外から訪れてもらうだけではなく、本市の出生数が増えるような取組も拡大していきたいことから、このような都市像を掲げている。

（委員）
目指すべき都市像の説明文はとてもよく練られているが、「高松」という固有名詞を省くと、どこの市町村にもあてはまるものになっているのではないか。固有名詞を入れることで、高松の個性を出し、高松という地名がなくても、読む人が高松のことだと感じられるものにしていただきたい。

（委員）
「世界都市を目指します」という結論だが、何をもって「世界都市」なのかという定義がないと分かりづらい。「世界都市」の定義があったとしても、「世界都市」になれば他はよいのかということもある。
例えば、観光客が増えただけでは「世界都市」と言わないと考えるので、都市像としての「世界都市」が分かりにくい。これまでは「瀬戸の都」がよく使われていたが、「世界都市」という文言は外したほうが良いのではないか。

（委員）
「世界都市」という文言は、少しオーバーではないか。

（会長）
「世界都市」をどのようにとらえていくのか、インターナショナルシティというキーワードをどう見ていくのかについては、いろいろな考え方があると思うので、十分な議論が必要だ。

（２）次期高松市総合計画の策定経過と令和５年度行政評価結果について

意見なし

（３）次期高松市総合計画基本構想案について
・グループディスカッションによる検討結果について

【まちづくりの目標１】
（委員）
　政策「１　子どもが健やかに生まれ育つ社会の形成」については、出生数が減っている中で、子育て世代だけではなく、様々な人が子育てに携わることができる機会を作ることが必要ではないか。
　支援についても、これまでのように専門家だけが行うのではなく、社会の中でお互いに支え合い、向き合う機会を作ることや多世代交流・異分野交流が欠かせない。
　政策「２　支え合う福祉社会の形成」については、超高齢社会の中で、高齢者が元気で暮らすため、また、子どもは健やかに成長するため、高齢者と子どもの交流の場づくりが必要である。

【まちづくりの目標２】
（委員）
　この目標は非常に重要で、時間の経過とともに内容が変わるものではない。
　まずは、政策と施策のロジックが成立しているか、構造がアンバランスになっていないかを確認した。
　主体が行政なのか、行政のサービスを受ける市民なのかが曖昧で、文章を読んだ時に、「誰がどうする」という点がぼやけてしまっている表現がある。
　また、修飾語など、きれいな表現が使われているが、曖昧な表現が多い。
　市民を対象にアナウンスすべきものの中に、情緒的な表現や人によって解釈が異なる表現が多いという印象である。
　全体的にまとめづらいということも理解できるが、できあがった文章は、角が取れた丸い表現になっているので、少しチャレンジングな内容も盛り込んで、市民に刺さるような文言が入ればよかったのではないかという印象であった。
　何のための、誰のための総合計画かがもう少し明確になれば、表現の課題もクリアできて、何ができていないかも分かる。表現をブラッシュアップしていただきたい。

【まちづくりの目標３】
（委員）
　商工業、企業誘致についても、人材不足が非常に大きな問題になっている。いかに人材確保に取り組むかが重要であり、また、ワーク・ライフ・バランスを実現しようとすると、更に人材不足が加速していく。交通業界でも人材不足が顕在化しており、全体的な方向性として、後継者不足という問題の解消や事業承継支援を積極的に実施すべきである。
　次代を担う若者をどうマッチングする仕組みをつくるかが大事である。
　先ほど「世界都市」の議論があったが、私の考えでは、「世界に誇れるまち」というイメージで、今後この 10 年間で取り組んでいただきたい。

インターネット、SNS の時代を迎えて、本市の魅力をどう PR していくか。そのためにはインフルエンサーの活用もしていくべきである。
施策「2-2 観光振興と交流の推進」で最も強調したいのは、１年半後に県立アリーナができることである。G７大臣会合も本市ですでに２回開催されており、更に「世界に誇る都市」を目指したいということで、県立アリーナを基軸とし、高松城の復元も視野に入ってくる。本市は、日本一のウォーターフロントを有し、バックに瀬戸内海がある。そのような表現を入れながら、それを目指していくこととしていただきたい。
政策「２ 地域活力の創造」では、さぬきうどんのように、市民が地域の価値を再認識して、シビックプライドを醸成する、「自分のまちはいいまちだ」と言えるような取組を進めてもらいたい。G７大臣会合のように、MICE の誘致を更に進めて、地域の振興を図るべきである。
政策「３ 文化芸術・スポーツの振興」では、本市は、スポーツを行う素地が大きく、それを活用した取組がさらに必要であるため、民間施設や資源を一層活用した方が良い。
健康増進に向けた生涯スポーツに関わる機会の更なる創出を進めていただきたい。

（委員）
教育、医療、福祉、全て財源が必要になる。財源確保には税収が必要で、そのような意味でも、やはり経済が大事である。
これからは人口が減っていくので、これまでと同様に財源が確保できなくなることも考えられるため、経済政策をしっかりと総合計画にも書き込んでいただくことが大事である。
人口が減少するとパイが小さくなるので、外貨を稼ぐ必要がある。国も観光立国を目指しており、その点も強く盛り込んでいただきたい。

（委員）
シビックプライドの醸成については、「世界に誇れる」というのではなく、結果的に世界に誇れたということになるのではないか。
市民一人一人が「高松に住んでよかった」「自分は高松出身だ」ということを誇りに思えることが大事で、そのニュアンスを正確に認識していなければ、目的と手段が逆転する。
将来的に人が帰ってくる状態にするには、各自の心の中にシビックプライドがなければならない。その点について合意形成した方が良い。

（委員）
人生 100 年時代と言われているが、身の丈に合った生き方、多様な生き方があるのではないか。
企業や社会でも、制度や政策がどんどん変わってきてい

る。
　高齢期を無事に生きるには、学び直すことが非常に大事であり、第２の義務教育的なものを提唱し、高齢者が新たな知識を身に付けるための取組が重要である。

【まちづくりの目標４】
（委員）
　セーフティネットは行政に委ねる部分が多い項目だという議論の中で、超高齢社会において、共助・自助をどう盛り込むか、また、高松市の計画なので、高松市固有の課題は何なのかにも話題が及んだ。
　生活衛生の中で、犬猫の殺処分の割合が高いのが香川県の特性であるため、殺処分をどのように減少させていくのか検討することが必要である。
　少子化が進む中で、自主防災組織の組織率が低下しているほか、消防、特に消防団の定員割れがみられる。また、女性の防災組織ももう少し評価をしていかなければならない。
　消費者トラブルに巻き込まれることも、高齢者だけではなく若者でも増えているので、これも公助に頼るだけではなく、地域の中での見守り強化が必要である。
　少子・高齢化の中で、財源の確保が難しく、公共施設・社会基盤の老朽化への対応については、しっかりと考え、環境整備に取り組んでいかなければならない。
　独居世帯が、今後も増えていくことが予測される中で、災害発生時に公助が中心ではあるが、共助・自助のまちづくりをどうしていくかが大事である。

【まちづくりの目標５】
（委員）
　まず課題について、都市空間に関しては、衰退する郊外部の商店街や空き家対策、都市交通に関しては、過度な自動車依存や公共交通サービスの向上、脱炭素社会に関しては、SDGs の市民に対する啓発が挙げられた。
　次に３つの政策の方向性について、「１　機能性の高い都市空間の形成」に関しては、本市はコンパクトシティを推進しているが、持続的なまちづくりという長期的なビジョンのもと、空き家の対策、対応といった土地の利活用という具体的な方策を検討する必要がある。具体的には、瓦町駅周辺だけではない駅周辺の活性化が、中心市街地活性化の観点から重要である。
　「２　交流・連携を支える都市交通の充実」に関しては、現状は市民が自動車に依存するライフスタイルであり、環境負荷低減のためにも、公共交通機関やレンタサイクルを始めとする自転車の利活用を推進する必要がある。交通事業者だけではなく、地域住民とも連携を図りながら、それぞれの地域に合わせた効率的で持続性の高い交通網を整備していくことが求められる。
　「３　環境と共存する脱炭素社会の実現」に関しては、ゼロ

カーボンシティを推進していることもあり、より多くの市民が環境問題について自ら考える、脱炭素ライフスタイルを普及していく必要がある。
　日本でも SDGs や脱炭素の取組が加速しており、７月には、環境省から脱炭素につながる新しい国民運動がスタートしたが、本市としても、再生可能エネルギーの普及促進やゼロカーボンシティの実現に向けて、市民と共に取り組んでいく必要がある。

（委員）
　まちづくりの目標「都市機能と自然が調和し、快適さと利便性を兼ね備えたまち」について、利便性は非常に分かりやすいが、快適さは分かりにくい。何をもって快適とするのかが分かりにくいので、この文言を盛り込むのはいかがなものかと感じた。

（会長）
　少し長いので、その点も含めて検討されるとよい。

【まちづくりの目標６】
（委員）
　まちづくりの目標６は、地域コミュニティ、参画、協働、NPO、自立的で推進力のある行財政運営というところで、スマートシティやデジタル化をキーワードとして議論を進めてきた。
　地域や地域の人材が担うことを期待される部分は、どの政策・施策の中でも共通しており、今後一層、頼らざるを得なくなるだろうと考える。
　一方で、地域に目を向けると、地域コミュニティはかなり疲弊しており、弱体化している。
　その上で、今後何が必要かについて検討したところ、地域コミュニティにおいても、地域コミュニティ協議会でいえば、44 協議会中 41 協議会は任意団体だが、法人化も視野に入れながら、今後世代交代を進めたり、行政サービスの一部を担うことが期待されたりという中、ガバナンスが効いた組織体になることが必要になってくる。
　非営利団体についても同様で、地域を担う主体として、ガバナンスの効いた NPO 等の育成が急がれる。
　行財政の運営に関しては、デジタル化やスマートシティを進めていくべきだが、その傍らではデジタルデバイドへの対策に取り組みながら、デジタル化やスマートシティの推進による市民に対するメリットをしっかり見せていくことが重要である。
　行財政運営の基盤強化に関しては、人口が減ると税収も減るという前提で、効率化を進めながら、同時に優先順位をつけて、必要な施策に必要な予算をつけることが重要である。
　全体的な視点としては、この分野についても成果指標が必要になるのではないか。それもしっかり定めながら目標に向

かうことが必要である。ただ、人が何人集まったから良いという視点以上のものが、特にこの分野では必要になるのではないか。

（委員）
「さまざまな主体がつながり、ともに力を発揮できるまち」はスローガンで止まっている。さまざまな主体が集まって何ができるのかを明確にしないと目標にはならない。「価値を創造する」という趣旨の文言が盛り込まれると、ある程度実行のニュアンスが出てくると思う。

（事務局）
次期総合計画基本構想３８Ｐで、どのような主体がつながって、どのように力を発揮していくかを、全体としてお見せする形になっている。ただ、タイトルとして、もう少し分かりやすい表現にしてほしいという趣旨の御意見と思うので、検討させていただく。

（会長）
全体についてご意見があればお願いしたい。

（委員）
これまで一番元気だった団塊の世代が 75 歳に近づいても、まだジムに通っていて元気だが、2030 年代に入ると、全員が 80 歳代になっていて、状況が急変する。自助・共助も重要だが、公助としてセーフティネットにしっかり取り組んでいくことを示していただきたい。
最近の若い人たちは、スマホを中心に生活しており、彼らが本市を好きになって、世代交代ができるような状況になるかどうかが重要である。
次期総合計画の８年間の前半４年間と後半４年間では、状況が大きく異なるので、その辺りを行政として認識してほしい。

（委員）
まちづくりの目標１（資料５　答申案に向けた素案）に「生活の質が充実して」という記載がある。これだけ生活が多様化している中では、「質」という文言をわざわざ入れなくてもよいのではないか。個々人の生活が充実しているだけでいいのではないか。
「生活の質」は、高度経済成長の中では画一的だったが、これだけ多様化してくると、質も多様化している。そのため、「質」という言葉が邪魔になるのではないか。

（委員）
まちづくりの目標６　施策「参画・協働の推進」について、NPO の方々に一生懸命取り組んでいただいているが、市民はなかなか自分事として捉えられず、活動をあまり知らな

いというところも多い。
　持続可能な取組にしていくには、どんな活動をしていて、それによって地域がよくなっていることを情報発信していく必要がある。
　行政がやるか、地域コミュニティ協議会がやるかは別として、ぜひ発信についても施策の中に入れていただきたい。

（委員）
　まちづくりの目標１～６までを聞いて、頷くことが多かった。その上で目指すべき都市像に戻ると、説明文も含めて、よくまとまっていると感じた。

（委員）
　まちづくりの目標１　政策「１　子どもが健やかに生まれ育つ社会の形成」の方向性について、高齢化に伴い、「子育てを通じた多世代の交流」「多様性のある子育てスタイル」が挙げられているが、それには子育て世代と、子ども自身の声や目線を通して、共生していける社会の形成が重要である。

（委員）
　まちづくりの目標１　政策「３　心身ともに健康に暮らせる社会の実現」の中で、健康でなければいけないということで、本市は健康都市推進ビジョンを基に各取組が進められている。その中に、健康寿命の延伸と生活の質の向上が掲げられているが、高松市民が元気で長生きできることを願っている「健康都市推進ビジョン」という項目が追加できないか。

（委員）
　子育てや教育に関して、組織的なものは施策として盛り込まれているが、当事者である親世代、親が子育てや教育にいかにしっかり責任を持つか、教育の原点は家庭にあることなどを盛り込むべきでないか。

（委員）
　本市が進めていきたいビジョンを打ち出すために、明るいイメージで作っていると思うが、入れすぎるとあれもこれもしなければならなくなる。予算にも限界もあるので、優先順位をつけるのは難しいが、絶対にやらなければならない部分と、そうでない部分を区別しないと、できないことまで「やります」といったミスリードを生まないかが心配である。

（会長）
　人口減少社会においては考えなければならない課題である。盛りだくさんになりがちだが、将来「これはできない」となってはいけないので、検討していただきたい。

（委員）
　就労者の視点を入れていただきたい。

目指すべき都市像は、とてもよく考えられている。

（委員）
そもそもまちづくりは誰のためにやるのかを考えた場合、一番はそこに暮らす市民の視点が重要だ。その点、素案で議論されていることは、市民の視点をとても大事にしている項目が盛り込まれて、個人的にも良いと感じた。
目指すべき都市像についての議論があったが、「人が集う」や「世界都市」など、外からの視点が少し強いのではないかと感じたので、市民目線をもう少し盛り込んでもよいのではないか。

（委員）
本市は、都市間競争に負けており、財政が一層厳しくなる中、何を優先して、何の施策を目玉として充実していくかが問われている時代である。
地域コミュニティに関して、44の地域コミュニティ協議会の活動は硬直化しており、若手のボランティア人材が不足している。自治会加入の促進も当然だが、ぜひ若手の人材育成も行政主体で行っていただき、地元のまちに愛着を持てる人材の育成をお願いしたい。

（委員）
私は、転勤等でいろんなところに住んだが、本市はとても住みやすく、災害も少ないなど、とても良いところである。いろんな意見があるが、本市の良いところをもっともっとブラッシュアップして、それを前面に出していくべきである。

（会長）
本日ご議論いただいた内容を踏まえ、第４回審議会の答申案としてお示ししたい。
何のための計画かを考えることが大切であり、住む人の幸せにつながることが一番大事である。
行政がやりやすいようにではなく、行政は大変でも、本市に住む人たちが、少子化や人口減、超高齢化が進行する中でも、みんなが協力していける体制の中での計画であることが重要である。行政目線ではなく、市民目線の計画にできればよい。
また、何でも盛り込んでいいのか、将来的にはできなくなるということなら、ダウンサイジングしていく施策も検討していく必要がある。この辺りは今後の課題としていただきたい。

（４）その他について

（事務局）
次回は、１０月１６日（月）を予定している。

（閉会）

答申（案）

高松市は、「活力にあふれ　創造性豊かな　瀬戸の都・高松」を目指すべき都市像に掲げ、まちづくりが進められているところです。

一方で、これからは、人口減少、少子・超高齢社会の進行、新型コロナウイルス感染症による経済社会の在り方の変化、脱炭素社会への転換など、様々な時代の潮流を的確に捉えたまちづくりが必要です。

その上で、複雑化・高度化する地域課題、行政課題に対応し、市民一人一人が自分らしく、心豊かな暮らしを実感できる社会を実現するためには、市民、事業者、市民活動団体、行政がそれぞれの役割を担い、そして連携して取り組んでいくことが重要であると考えます。

また、厳しさが増す財政状況であっても、高松市の特性を最大限にいかしつつ、県都として、また四国の中核都市として、更には、世界から注目される都市として、将来にわたって持続的に発展していかなければなりません。

このような中、当審議会が諮問を受けた次期高松市総合計画基本構想案は、高松市の将来展望を示す目指すべき都市像とまちづくりの目標を示すものであり、今後のまちづくりの指針として、意気込みやメッセージ、理念を基本構想案に反映させ、活力ある市政運営が図られるよう、各委員の見識と経験を踏まえ、意見を出し合い、精力的に審議を重ねてまいりました。

その結果、今回の基本構想案は、目指すべき都市像とそれを実現していくためのまちづくりの目標、具体的な政策の方向性が明らかにされており、市民誰もが分かりやすく、また、まちづくりの方向性がおおむね妥当であると認め、ここに答申するものです。

なお、審議の過程において出された多くの意見、要望を基に、当審議会の総意として、次の点について、意見を付すことにより、総合計画の推進に当たっては、市民と行政が共に同じ目標に向かって取り組めるよう、これらの意見を十分に尊重されるよう要望します。

総　括

高松市は、これまで瀬戸内海との深い関わりの中で発展し、多様な人々が交流しながら、様々な創造的な活動やイノベーションが生まれてきたが、これからも、多彩な地域資源や特性をいかして市民主体のまちづくりを推進するため、目指すべき都市像である「人がつどい未来に躍動する　世界都市・高松」の実現を図られたい。

「世界都市」という視点をもって、まちづくりに取り組む姿勢を大切にし、そのメッセージを受け取った市民一人一人がそれぞれの「世界都市」という観点を認識できるよう、各種取組を推進されたい。

「まちづくりの基本方針」として、「選ばれるまちづくり」、「持続可能なまちづくり」、「協働によるまちづくり」を位置付けており、これらは、将来の高松市のまちづくりにとって非常に大切な視点であり、今後、実施計画の中で重点施策の内容を具現化するに当たり、部局の垣根を超え、横断的に、そして、重点的に取り組み、着実に推進を図られたい。

長年培われてきた高松市ならではの人の温かさや心の豊かさに着目し、人と人とのつながりや支え合いを大切にしながら、国際化への対応、様々な価値観・個々の多様性を認め合うという視点でまちづくりを進められたい。

人口減少対策に関する取組の自治体間競争が進み、特に若者の県外流出が課題となる中、豊かな自然環境と経済をけん引する都市機能を併せ持つ高松市の特性をいかし、医療や子育て、産業などの基盤を整備し、住みやすい、働きやすい、子育てしやすいまちづくりを進められたい。

自治の基本理念に基づく市民主体のまちづくりを重視し、行政がやるべきこと、市民や地域、事業者ができること、各主体が連携しながら取り組むことなど、各主体が当事者意識を持ち、能動的にまちづくりに関わっていけるような仕組みづくりを推進されたい。

行政のリーダーシップの下、新しいまちづくりと市政運営の基本方針を市民・事業者・市民活動団体等で共有することが重要であり、より多くの市民等に総合計画を知ってもらうことが大切であるため、具体的な取組内容が分かりやすく伝わるよう、周知・啓発に力を注がれたい。

総合計画基本構想の達成度については、成果指標等を用いた客観的で合理的な方法で評価し、ＰＤＣＡサイクルによる施策のたゆまぬ見直しと改善を行うよう努められたい。

まちづくりの目標１　誰もが自分らしく健やかに暮らせるまち

1　全ての子育て家庭が安心して子どもを生み育てられるよう、妊娠・出産・子育てできる環境づくり、子どもたちが身近に安心して過ごせる居場所の提供、子どもを中心とした多世代交流の推進などに取り組まれたい。

核家族化の進行や地域とのつながりの希薄化など、子育て環境が多様化している中、次代を担う子どもたちが、健やかに生まれ育っていくという目標を地域社会全体で共有・実践できるよう、地域社会がつながり合う仕組みづくり、多様な人材を活用した学習・体験機会の創出、子どもと子育て家庭を支援する取組を推進されたい。

2　超高齢社会に対応するため、保健・医療・福祉サービス提供者と地域との連携協力の下、地域包括ケア体制の充実や地域共生社会の構築に取り組み、いつまでも住み慣れた地域で安心して生活できる施策の展開を図られたい。

また、地域福祉の中心的な役割を果たす担い手の不足や高齢化が課題であり、新たな担い手の育成や安定的な確保、住民相互の助け合い・支え合いの取組を推進されたい。

3　人生１００年時代においても、生活の質が充実して健康で元気に暮らせるよう、健康寿命の延伸に向けた取組や医療体制を充実させる取組を推進されたい。

まちづくりの目標２　人が育ち、多様な生き方が尊重されるまち

1　子どもの豊かな心、健やかな体、確かな学力を育むため、子ども一人一人に応じた、きめ細かな指導に取り組まれたい。

2　家庭・地域の教育力の向上を図り、社会全体で子どもを守り育てていく環境づくりを実現するため、学校・家庭・地域それぞれが適切な役割分担を果たし、相互に連携した取組を推進されたい。

　また、多様化する市民の学習意欲に応え、学びの成果の活用を促進するため、多様な学びの機会の提供、生涯にわたって活躍できる環境整備などに取り組まれたい。

3　年齢や性別、国籍、障がいの有無に関わらず、全ての市民が個性と能力を発揮できるよう、基本的人権や多様性が尊重される社会を実現されたい。

　また、外国籍の市民が増加する中、国籍の違いに関わりなく、市民同士の相互理解を促進するなど、多文化共生のまちづくりを進められたい。

まちづくりの目標３　魅力ある資源をいかし、都市の活力を創造するまち

1　労働力人口の減少や消費市場の縮小などが懸念される中、まちの活力を維持・向上させていくため、新しい産業の創出支援や戦略的な企業の誘致、生産性向上、高付加価値化、事業承継・引継支援などを通して、地域の稼ぐ力を高められたい。

　また、未来を担う若者を始めとしたあらゆる世代の働く場づくり、高松市での就職希望者の適切なマッチングを促す仕組みづくりなど、労働力不足への対策に取り組まれたい。

2　高松市の様々な資源や魅力を市民も巻き込みながら情報発信し、市民が地域に目を向け、地域の価値を再認識できるよう、シビックプライドの醸成に取り組まれたい。

　交流人口の拡大と地域活性化を図るため、Ｇ７香川・高松都市大臣会合の実績をいかし、開催地域を中心に大きな経済波及効果が期待できるＭＩＣＥ誘致に戦略的に取り組まれたい。

3　市民の健康増進に向け、生涯スポーツに取り組む機会の更なる拡充を図られたい。

　また、スポーツを高松市の強みとして、地域産業の活性化や観光・交流を推進するため、各種スポーツ団体等と連携し、にぎわいの創出に取り組まれたい。

まちづくりの目標４　安全・安心に暮らせるまち

1　近年、自然災害が激甚化、頻発化しており、これらに迅速・的確に対応するため、事前の防災・減災対策に取り組まれたい。

また、自主防災組織の機能維持や地域防災の担い手となる市民一人一人の防災意識の高揚を図るなど、自助・共助の活動を支援されたい。

市民の安心な暮らしを確保するため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応で得た経験をいかし、今後、新たな健康危機が発生した場合においても迅速に対応できるよう、健康危機管理体制を整備し、平時からの備えを充実されたい。

2　地域防災力の要である消防団の充実を図るため、若年層を含む市民に対し、積極的な情報発信を図り、体制強化や環境整備に取り組まれたい。

全ての市民が交通事故や犯罪、消費者トラブル等に巻き込まれないよう、警察や防犯協会等の関係機関と連携し、意識啓発の推進、情報提供、各種地域防犯活動の支援などに取り組まれたい。

3　人口減少、少子・超高齢社会の進行に伴う空き家等の増加を想定し、適切な管理と利活用を促進するため、的確な対策の取組を推進されたい。

道路・橋りょうを整備し、全ての歩行者が安全・安心・快適に通行できるよう、道路照明灯の設置やバリアフリー化などに積極的に取り組まれたい。

まちづくりの目標５　都市機能と自然が調和し、快適さと利便性を兼ね備えたまち

1　自然の豊かさと都市としての便利さをいかした土地利用の最適化を推進するため、持続可能なまちづくりという長期的なビジョンの下、土地利活用の動向に対する具体的な方策を検討されたい。

　コンパクトで持続可能なまちを形成するため、都市拠点の中核を担う中心市街地を活性化させ、多様で魅力的な都市機能を備える地域の拠点にも機能的な都市空間を形成するなど、市内地域それぞれのバランスにも十分配慮しながら取組を推進されたい。

2　全ての市民が過度に自動車に依存しないライフスタイルを実現できるよう、環境負荷低減にもつながる公共交通や自転車の利便性を向上させ、啓発活動による自動車からの転換を図られたい。

　また、交通事業者だけでなく地域住民を始め地域の多様な関係者とも連携を図りながら、需要に対して最適な公共交通サービスを提供し、地域の実情を踏まえた効率的で持続性の高い公共交通網を構築されたい。

3　ゼロカーボンシティの実現に向け、市民や事業者、関係機関と連携を図りながら、より多くの市民が環境問題について自ら考える脱炭素ライフスタイルの普及促進に取り組まれたい。

　また、行政がリーダーシップを発揮しながら、再生可能エネルギーの導入促進、省エネルギー化、脱炭素につながる自動車からの転換、ごみの排出抑制や再使用などに積極的に取り組まれたい。

まちづくりの目標６　さまざまな主体がつながり、ともに力を発揮できるまち

1　地域コミュニティの自立・活性化を図るため、時代の変化や社会の変容に即した在り方を検討し、地域コミュニティ活動を担う人材の確保・育成や活動への更なる支援に取り組まれたい。

また、地域コミュニティ協議会事務局における組織の透明性を高め、自主財源を確保するなど、ＮＰＯ法人等への組織改編に向けた支援に積極的に取り組まれたい。

市民主体の参画・協働のまちづくりを推進するため、市民の参画を更に進めるという視点に立ち、市民からの事業提案など、新たな協働の仕組みづくりに取り組まれたい。

また、市民活動団体の更なる組織の活性化、人材の育成を図りながら、その専門性をいかし、地域づくりに一層参画できる仕組みづくりに取り組まれたい。

2　誰もがデジタル技術の進展に伴う恩恵を享受できるよう、行政事務の効率化、高齢者などのデジタルデバイド対策に取り組みながら、複雑化・高度化していく地域課題の解決を図れるよう、スマートシティに関する取組を推進されたい。

今後も厳しい財政状況が続くと想定される中、多様化する行政の役割を果たすため、行財政運営のより一層の効率化に取り組まれたい。

また、社会情勢の変化を踏まえ、事業の見直しや優先順位の整理を行いながら、真に必要な施策を見極め、実行することにより、将来にわたり持続可能な行財政基盤を確立されたい。

発言要旨に対する方針

No	審議会	意見	対応方針
1	第1回	政策「地域活力の創造」の政策の方向性において、今後、更にインバウンドが増加するため、それらを好機と捉えた観光振興については記載があるが、先日開催された「G7香川・高松都市大臣会合」のようなMICE・世界会議の積極的な誘致について記載がないので検討していただきたい。	趣旨を答申案に反映
2	第1回	総合計画を市民の皆様に理解していただくことが最優先だと思うが、このことについて、「総合計画の推進」の中に記載がない。 これまでと同様に策定しただけでは、総合計画の内容や行政が目指す方向性を市民に伝えることができない。 この点について、計画に盛り込むべきではないかと考える。	趣旨を答申案に反映
3	第1回	社会情勢の変化が激しい中で策定する新たな総合計画であるが、施策体系はどのように整理したのか御教示いただきたい。 また、人生１００年時代を迎える中、高齢者を取り巻く状況も変化しており、「人生１００年時代」はあらゆる分野に横断的に関連するキーワードであると考える。	趣旨を答申案に反映
4	第1回	人口減少社会において、公共施設の老朽化対策、今後の整備方針なども本市の課題として挙げられる。	基本構想案７３Ｐ 「自立的で推進力のある行財政運営の確立」で検討
5	第1回	序論「わたしたちのまち高松市」では、読者に伝わる表現となるよう工夫されたと思う。 自治基本条例に謳われている地域コミュニティ協議会や市民活動団体は、現行の総合計画も関心を持って読んでいると思うので、その人たちにも伝わる記述が必要ではないかと考える。	基本構想案５Ｐ 「わたしたちのまち高松市」で検討

No	審議会	意見	対応方針
6	第1回	本市としては、様々な分野に取り組んでいかなければならないと思うが、どの政策・施策を重点的に取り組んでいくか優先順位を付け、目玉の政策を打ち出していくことも必要である。 また、今後８年間の間にも社会情勢は大きく変化していくと思うので、アジャイル型で施策を積み上げていくことが有効であるように思う。 SDGsの新たな項目追加の動きもあるため、本市としても、このような動きと連動しながら、政策・施策を推進するべきである。	趣旨を答申案に反映
7	第1回	次期総合計画を「いつまでに」、「何を」、「どのように」達成し、実現していくのか記載がない。 現行の総合計画は、具体的な成果指標や数値目標があったので、次期計画においても具体的な目標の記載があった方が良いのではないか。	趣旨を答申案に反映
8	第1回	民間企業は、高度経済成長期に作られたビジネスモデル、行政は、従来の政策・施策を展開してきたが、今後の人口減少社会においては、従来の手法に捉われず、見直していく必要がある。 一方で、その前提は税収の確保であるので、しっかり税収につながり、経済成長できる政策を盛り込んでもらいたい。 大西市長が就任し、２０年が経過しようとしているので、ドラマチックな計画を期待したい。	趣旨を答申案に反映
9	第3回	（目指すべき都市像は）確かに広がりがあり、未来に続くというイメージはつくが、「世界都市」は何をもって「世界都市」なのかが分かりにくい。 グローバルから選ばれるのが「世界都市」なのか、グローバルに対して展開していくのが「世界都市」なのか、これではどちらをイメージしているのかが伝わってこない。 総合計画の基本的な考え方で「選ばれるまちづくり」を掲げており、「世界から選ばれる」と理解したが、よくよく読むと違うような気もするので、趣旨を説明してほしい。	趣旨を答申案に反映

No	審議会	意見	対応方針
10	第3回	この都市像が、総合計画の基本的な考え方にリンクすれば、もっとつながっていく。個々のパーツの中ではまとまっているが、連動しないと、総合計画としてはあまり意味をなさず、それぞれの自己満足に終わるのではないか。 次につながっていくことが明確になるような言葉が入っている方が良い。	基本構想案２９Ｐ 「総合計画の基本的な考え方」で検討
11	第3回	まちづくりとは、すなわち、人が集まって、活動することだ。本市が直面している、人口減少、子育て、共生社会などのそれぞれの課題を解決していかなければ、目指すべき都市像を実現できない。 出生率の向上に向けて、妊娠・出産に対する費用補助など、子育て支援はしっかりと行われているが、バラマキ政策で終わるようでは困る。 地域、社会、企業などが連携し、子育てしやすい仕組みづくりを構築していくこと、本市として、子育てに関する予算をどう確保していくかを考えていかなければならない。	趣旨を答申案に反映
12	第3回	目指すべき都市像の説明文はとてもよく練られているが、「高松」という固有名詞を省くと、どこの市町村にもあてはまるものになっているのではないか。固有名詞を入れることで、高松の個性を出し、高松という地名がなくても、読む人が高松のことだと感じられるものにしていただきたい。	趣旨を答申案に反映
13	第3回	「世界都市を目指します」という結論だが、何をもって「世界都市」なのかという定義がないと分かりづらい。「世界都市」の定義があったとしても、「世界都市」になれば他はよいのかということもある。 例えば、観光客が増えただけでは「世界都市」ではなく、分かりにくい。これまでは「瀬戸の都」という表現でよく使われていたが、「世界都市」という文言は外したほうが良いのではないか。	趣旨を答申案に反映
14	第3回	「世界都市」をどのようにとらえていくのか、インターナショナルシティというキーワードをどう見ていくのかについては、いろいろな考え方があると思うので、十分な議論が必要だ。	趣旨を答申案に反映

No	審議会	意見	対応方針
15	第3回	シビックプライド醸成についてだが、「世界に誇れる」というのではなく、結果的に世界に誇れたということになるのではないか。 市民一人一人が「高松に住んでよかった」、「自分は高松出身だ」ということを誇りに思えることが大事で、そのニュアンスを正確に認識しておかないと、目的と手段が逆転する。 将来的に人が帰ってくる状態にするには、各自の心の中にシビックプライドがなければならない。その点について合意形成したほうがよい。	基本構想案７５Ｐ「総合計画の推進」で検討
16	第3回	そもそもまちづくりは誰のためにやるのかを考えた場合、一番はそこに暮らす市民の視点が重要だ。その点、素案で議論されていることは、市民の視点をとても大事にしている項目が盛り込まれて、個人的にも良いと感じた。 目指すべき都市像についての議論があったが、「人が集う」や「世界都市」など、外からの視点が少し強いのではないかと感じたので、市民目線をもう少し盛り込んでもよいのではないか。	趣旨を答申案に反映
17	第3回	教育、医療、福祉、全て財源が必要になる。財源確保には税収が必要で、そのような意味でも、やはり経済が大事である。 これから人口が減っていくので、これまでと同様に財源が確保できなくなることも考えられるため、経済政策をしっかりと総合計画にも書き込んでいただくことが大事である。 人口が減少するとパイが小さくなるので、外貨を稼ぐ必要があり、国も観光立国を目指しており、その点も強く盛り込んでいただきたい。	趣旨を答申案に反映
18	第3回	人生100年時代と言われているが、身の丈に合った生き方、多様な生き方があるのではないか。 企業や社会でも、制度や政策がどんどん変わってきている。 高齢期を無事に生きるには、学び直すことが非常に大事であり、第二の義務教育的なものを提唱し、高齢者が新たな知識を身に付けるための取組が重要である。	趣旨を答申案に反映

No	審議会	意見	対応方針
19	第3回	まちづくりの目標「都市機能と自然が調和し、快適さと利便性を兼ね備えたまち」について、利便性は非常に分かりやすいが、快適さは分かりにくい。何をもって快適とするのかが分かりにくいので、この文言を盛り込むのはいかがなものかと感じた。	基本構想案３８Ｐ 「まちづくりの目標５」で検討
20	第3回	まちづくりの目標「さまざまな主体がつながり、ともに力を発揮できるまち」はスローガンで止まっている。さまざまな主体が集まって何ができるのかを明確にしないと目標にはならない。 「価値を創造する」という趣旨の文言が盛り込まれると、ある程度実行のニュアンスが出てくると思う。	基本構想案３８Ｐ 「まちづくりの目標６」で検討
21	第3回	これまで一番元気だった団塊の世代が75歳に近づいても、まだジムに通っていて元気だが、2030年代に入ると、全員が80歳代になっていて、状況が急変する。自助・共助も重要だが、公助としてセーブティネットをしっかり取り組んでいくことを示していただきたい。 最近の若い人たちは、スマホを中心に生活しており、彼らが本市を好きになって、世代交代ができるような状況になるかどうかが重要である。 次期総合計画の８年間の前半４年間と後半４年間では、状況が大きく異なるので、その辺りを行政として認識してほしい。	趣旨を答申案に反映
22	第3回	まちづくりの目標１（資料５　答申案に向けた素案）に「生活の質が充実して」という記載がある。これだけ生活が多様化している中では、「質」という文言をわざわざ入れなくてもよいのではないか。個々人の生活が充実しているだけでいいのではないか。 「生活の質」は、高度経済成長の中では画一的だったが、これだけ多様化してくると、質も多様化している。そのため、「質」という言葉が邪魔になるのではないか。	趣旨を答申案に反映

No	審議会	意見	対応方針
23	第3回	まちづくりの目標６　施策「参画・協働の推進」について、NPOの方々が一生懸命取り組んでいただいているが、市民はなかなか自分事としてとらえられず、活動をあまり知らないというところも多い。 持続可能な取組にしていくには、どんな活動をしていて、それによって地域がよくなっていることを情報発信していく必要がある。 行政がやるか、地域コミュニティ協議会がやるかは別として、ぜひ発信についても施策の中に入れていただきたい。	趣旨を答申案に反映
24	第3回	まちづくりの目標１　政策「１ 子どもが健やかに生まれ育つ社会の形成」の方向性について、高齢化に伴い、「子育てを通じた多世代の交流」「多様性のある子育てスタイル」が挙げられているが、それには子育て世代と、子ども自身の声や目線を通して、共生していける社会の形成が重要である。	基本構想案４１Ｐ 「子どもが健やかに生まれ育つ社会の形成」で検討
25	第3回	まちづくりの目標１　政策「３ 心身ともに健康に暮らせる社会の実現」の中で、健康でなければいけないということで、本市は健康都市推進ビジョンを基に各取組が進められている。その中に、健康寿命の延伸と生活の質の向上が掲げられているが、高松市民が元気で長生きできることを願っている「健康都市推進ビジョ」ンという項目が追加できないか。	趣旨を答申案に反映
26	第3回	子育てや教育に関して、組織的なものは施策として盛り込まれているが、当事者である親世代、親が子育てや教育にいかにしっかり責任を持つか、教育の原点は家庭にあることなどが盛り込むべきでないか。	基本構想案４９Ｐ 「生涯を通じて学び合う教育の充実」で検討
27	第3回	本市が進めていきたいビジョンを打ち出すために、明るいイメージで作っていると思うが、入れすぎるとあれもこれもしなければならなくなる。 予算にも限界もあるので、優先順位をつけるのは難しいが、絶対にやらなければならない部分と、そうでない部分を区別しないと、できないことまで「やります」と言ったことがミスリードを生まないかが心配である。	趣旨を答申案に反映

No	審議会	意見	対応方針
28	第3回	人口減少社会においては考えなければならない課題である。盛りだくさんになりがちだが、将来「これはできない」となってはいけないので、検討していただきたい。	趣旨を答申案に反映
29	第3回	就労者の視点を入れていただきたい。	基本構想案５３Ｐ「人と活力であふれる産業の振興」で検討
30	第3回	本市は、都市間競争に負けており、財政が一層厳しくなる中、何を優先して、何の施策を目玉として充実していくかが問われている時代である。 地域コミュニティに関して、44の地域コミュニティ協議会の活動は硬直化しており、若手のボランティア人材が不足している。自治会加入の促進も当然だが、ぜひ若手の人材育成も行政主体で行っていただき、地元のまちに愛着を持てる人材の育成をお願いしたい。	趣旨を答申案に反映

目標：令和１３年に出生数を
（実績値（令和４年）：２，９５６人）

目標：令和１３年に１年間の転入と転出の差（社会増）を
（実績値（令和４年）：社会増２７９人）

目標：令和１３年度の新設事業所数を
（実績値（令和３年度）：５，４２７事業所）

目標：令和１３年度に本市の主な観光施設等利用者数を
（実績値（令和４年度）：５，４３８千人）

目標：令和１３年度の市民のシビックプライド　　％
（実績値（令和４年度）：８４．５％）

市民満足度調査における「高松市への愛着度」（愛着を「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合）の値とする。